

日本語英国教会ニュースレター

第 83 号 2016 年 12 月発行

まぶねの幼子

日本聖公会首座主教
ナタナエル 植松 誠

日本の、いわゆる世間一般のクリスマスは、その始まる時期が年々早まるように思います。数年前までは、まだ降臨節に入ったばかりなのに・・・という時期でしたが、最近は降臨節どころか、もうすでに10月末頃からクリスマスケーキの予約が始まっています。若者たちが入るようなお店にはハロウィーンが終わるやいなやすぐにサンタクロースが出現し、クリスマスツリーや美しいロウソクが飾られ、気分はすでに「メリー・クリスマス！」になりそう。クリスマスツリーが飾られるお寺も少なくないし、お寺の幼稚園でも「ジングルベル」とともにサンタクロースが登場し、「きよしこのよる」も歌うところがあるとのこと。日本中が俄かキリスト教国のようにだと驚いた海外からの宣教師もいました。そのような状況に、私たちクリスチャンとしては、少し眉をひそめながらも、なにか自分の信仰が市民権を得たような、そんな気分にもなってしまいます。

イエスの弟子たちが、他の者がキリストの名を使って癒しの業をしていることに憤慨した時、イエスは言われました。「わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである」(マルコ9:40)

さて私たちはこの時期、クリスマスシーズンに浮かれているように見える人々に眉をひそめるほどに、本当のクリスマスの意味を噛みしめているのでしょうか。本当に大切なことは、目に見えることに心騒がせるのではなく、奥深く隠された真理に心を傾けることではないかと思えます。

「まぶねの幼子には 十字架の痛みが待つ

救いの神のわざを 心に深くきざみ
感謝の声をあげて 主イエスの道をたどる」
聖歌 9 6 番（降誕節）

降誕節のこの聖歌に歌われる「十字架の痛み」は、幼子イエスの誕生から始まり、十字架に至る私たちへの救いのご計画が、神の愛の業であることを思い起こさせます。

12月24日のクリスマスイブ、そして25日にかけて、私たちがクリスマスの華やかさに浸ります。しかし、クリスマスの終わるころ、華やかさは消え、クリスマスケーキは半額以下になり、クリスマスツリーは外に捨てられ、皆の関心はお正月に飛んでいきます。私たちの心の中に、十字架の痛みの始まりとしての大切なクリスマス、主のご降誕の祝福の光が消えてしまわないように、今のこの降臨節こそ、一日一日を心静かに、思いを深くして過ごしたいものです。

** 植松主教さまから次の言葉と共に上記のメッセージをいただきました。「いつも日本聖公会のため、また日本各地における被災者たちのためにご尽力くださいます。誠にありがとうございます。上記は、日本聖公会管区事務所だよりに掲載されたものですが、お使いいただけたら幸いです。どうぞよいアドベント、クリスマスでありますように。」

□□□□□□ 前回の報告 □□□□□□

日本語英国教会 St. Martin's

今年最後の11月の集まりは、大人18人(先生お二人含めて)、子供8人の集まりでした。

友紀さんが家族の事情で急遽日本へ向かい不在でしたので、この日は皆で手分けして集まりを進めました。幸運にも Camden Town の St Michael 教会よりトム・プラント神父を迎え、聖餐式を受ける事が出来ました。

最初に全員の自己紹介をして、トム神父と園田先生が過去に会った事があるという発見があり盛り上がり、更にトミ

さんが **Hendon** 日本人墓地の集まりでトム神父が司式をなさった時「故郷」を日本語で歌ってそれが皆の心に響いたというお話もしていただきました。千鶴さんが結婚する前に **Guy** さんと行っていた教会がトム神父が赴任する前の **St Michael** 教会で、当時会衆が僅かしかいなかったのが、今では 90 人近い会衆が集まり、多様な教会活動が盛んに行われています。

その後トム神父による聖餐式で、全部流暢な日本語で司式をされました。子供達も陪餐に参加しました。説教の代わりに、私が友紀さんからのメッセージ（下記参照）を読みました。子供達共に祝福を受け、今年 1 年の良い締めくくりの集まりとなりました。

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

主のみ名によって連なる兄弟姉妹へ

今日、私事の為に、ご一緒に聖餐式にあずかることができず、非常に残念に思っておりますが、皆さま一人一人に思いを馳せ、祈りを捧げております。

11 月 14 日月曜日、私は仕事の後にセントポール大聖堂の **Evensong** すなわち夕方の祈りにトミさん、一美さん、千鶴さんと共に参加しました。大聖堂では、週日三回の礼拝が守られ、その中で、世界のあちこちにある英国教会そしてロンドン教区内の教会と支援団体を覚えて順繰りに名前が読み上げられ祈りが捧げられています。毎年一回、私たちのグループを覚えて祈りますとのメッセージと共に素敵なカードによって事前に通知がされます。これまでは仕事の関係で参加できませんでしたが、今月末 **Lay Minister** として任命されて 5 年となりますので、出席しました。**St. Martin's** 教会の名前とニック司祭や他の信徒奉仕者の名前と共に私たちのグループと私の名前も読み上げられ祈りが捧げられた時に、見えない聖霊の力が注がれたように励ましが与えられました。不思議に本当に穏やかで、平安な思いと共に力強い力が注がれたのです。

今思うに、翌日早朝にハワイ経由で日本の家族の緊急の知らせが入ってから本日に至るまでの緊張したスケジュールをこなすことができたのも、セントポール大聖堂での **Evensong** での祈りを通して得られた力があってこそと言えます。

今、突然の出来事で家族にとって、大きな試練が与えられています。皆様のうちにもご経験があると思いますが、生きていと予想で

きない出来事は、誰にでも、起こることですね。予想できない、信じられない、悪夢のような恐ろしい体験は、足元がぐらつくような地震であり、嵐の中の小舟にいるようなものであることがあります。先の見えない、真っ暗な中に放り込まれるような思いとも言えます。辛く、苦しいことですが、私たちには、試練を乗り越えられる力が、神様から与えられていることをいつも覚えたいと思います。

以前にも取り上げました「イエスの言葉 ケセン語訳 山浦玄嗣」の本の中に、ヨハネ1章1節から5節までの言葉が紹介されています。「初めにことばがあった。ことばは神と共にあった。」と始まり、「—— ことばの内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解していなかった。」

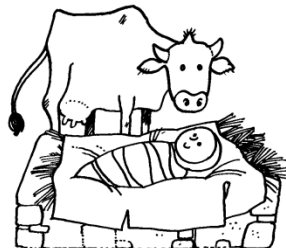
山浦氏は、その箇所を旧約聖書の創世記第一章1-3と対照しながら、説明します。「初めに、神は天地を創造された。地は混とんであって、闇が深淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてを動いていた。神は言われた。「光あれ。」

山浦氏は、創世記の言葉もヨハネの言葉いずれからも、『「神様の思いにはあらゆるものを幸せにピチピチ元気に、生き活きと生かす力があった」と訳します。「それなのに、人間は心の目を閉ざしてその光を見ようとしないのだ」とヨハネはつづけている。この世は闇だといわずに、目を開けてよく見れば、元気を与えてくれる神様のやさしい思いがまぶしいほどの光になってあなたがたを照らしているのが分かって語ります。』

教会の暦では、11月26日からアドベント イエスさまのご降誕を待ち望む季節が始まります。イエスさまを通して私たちに与えられた「光」は、どんな闇をも打ち負かす力であり、それは私達一人一人だれにでも与えられた「光」であることを覚えて、祈りを通して、このクリスマスの時期に再度ご一緒に確認したいと願っています。

主のみ守り、そしてみ力が皆様と共に与えられますように

11月20日 ジョンソン友紀





日本語英国教会 South East からの報告

11月27日(日) St Hugh's 教会にて、アドヴェントを迎える日曜日に今年最後の集まりを持ちました。今回は、前回の主題であった浄土真宗と親鸞の教えを簡単におさらいした後、同じ他力思想による救済を説きながらも、浄土真宗とは異なる教理を持つキリスト教における「許し」について考えました。私たちの日常で起こりがちな具体例を挙げながら、どういふ場合に私たちは人を許すのか、また、どういふ場合に私たちは人を許すことが出来ないのか等の意見を交しました。聖書から「許し」について、ルカによる福音書の「放蕩息子」の話为例にとり、たとえ話に登場する父はイエスを通して啓示された父なる神を指し示し、次男の息子のその回心へと至る物語の中に、神の恵みの豊かさを表していることを学びました。自由勝手に生前分与を済ませ、自由奔放に父の家から旅立った放蕩息子(弟)が、やがて本来あるべき場所に戻ってきた時に喜びがあり、それを分かち合うのは当然であるとしている点が共通しています。その一方で、このたとえ話は、財産を使い果たして帰ってきた弟に対して、喜びを分かち合うことが当然のように思わない兄の存在に焦点が合っています。そこには人間が抱いている深い根があるように思われます。

来年の勉強会で取り上げるテーマと致しまして、キリスト教における年中行事、キリスト教が影響をしている思想、文化、歴史等についてというご意見を頂きましたので、ご参考にさせていただきます。2017年の日程は、1月22日、3月26日、5月28日、7月23日、9月24日、11月26日を予定しております。

Hll 美奈子 jac.selondon@gmail.com



12月4日に St. Martin's 教会で行われたクリスマスバザーがありました。当日、篠田さん、千鶴さん、加藤さん、千鶴さんの友人である馬宮さんがお手伝いしてくれました。短くとも応援に駆けつけてくれたメンバーと共に楽しい時を持つことができました。私達の売り上げは、計£130.70 ありました。そのうち、30%である£39.18が福島の子供たちのリフレッシュ活動の為に日本聖公会を通して捧げられます。残り70%である£91.42は、St. Martin's 教会の働きの為に捧げられました。

残りの品ですが、日本製品は分割して来年度の集まりにてミニセールをし、来年のバザーで売れそうなものは、保管します。衣類と英語の古本などは Cancer Research と Heart Foundation のチャリティ団体に直接渡しましたので、ご了承ください。尚、追加として、5ポンド売り上げがありましたので、福島のリフレッシュ活動の寄付に加えたこともご了承ください。

最後になりましたが、今回非常に多くの寄付品を集めて下さったトミさんのご尽力がありましたこと、そして皆様の祈りとご協力があって、良き働きをすることができましたこと心から感謝しております。

ジョンソン友紀



**** なお、12月は集会はありません。
来年の集まりは、2017年1月15日となります****

Commissioned Lay Minister : ジョンソン友紀
120 Carhorse Lane REDDITCH B97 6SZ
携帯(夜間のみ) 07503 893880
yukifunakawa@btinternet.com
ブログ <http://blog.goo.ne.jp/jacuk>
<http://www.geocities.jp/eikokukyokai07/>